

「森の木々とアンドロメダ銀河」

アンドロメダ座銀河 (M31) までの距離は、太陽系から約 239 万光年。「地球から肉眼で見えるもの」としては、最も遠くにある物体です。天体望遠鏡と赤道儀を使って撮影すれば、この「遠い物体」も鮮明な姿を見せてくれます。私もたくさん撮りましたが、あまり気に入っていません。

太陽系から 239 万光年離れているということは、今見ているアンドロメダ座銀河は、239 万年前の光ということになります。239 万年前といえば、新生代の第四期が始まったばかり、つまり地球では、やっと人類の一番昔の祖先が誕生した時代です。アンドロメダ座銀河の光 (光子) は、人類の祖先が誕生してヒトに進化するまでのほぼすべての期間、宇宙空間を進んで来たこととなります。

その「貴重な光」を、地球の風景と一緒に撮影したいと思いました。これは意外に難しいことです。私は手始めに、自分の山荘の庭で撮影に挑戦しました。森の木々の間に見えるアンドロメダ座銀河・・・なかなか情景的な天体写真になりました。もっと挑戦したいです。



「森の木々とアンドロメダ座銀河」

2014, 11, 22 / 22:05 / 北軽井沢栗平 / ニコン D40 / 50mm F1.4 20 秒 / タカハシ P2 赤道儀
239 万年間、宇宙空間を進んで来た光が、地球の森から見えています。考えてみれば、すごく不思議なことです。この写真を撮っている時に、森の地面が大きく揺れ、木々がざわめきました。長野で強い地震があつて、北軽井沢も揺れたのです。 (お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)